



県発行プレミアム宿泊券・飲食券の利用状況

秋田県が発行するプレミアム宿泊券・飲食券の利用状況を把握するため、当研究所でアンケート調査を実施したところ、「購入した・する予定」とした割合は回答者全体の55.7%となり、購入しない割合（44.3%）を11.4ポイント上回った。宿泊券の使用地域では、回答の多い順から「大仙市・仙北市・仙北郡」、「鹿角市・鹿角郡」、「男鹿市・潟上市・南秋田郡」となり、県を代表する観光地のある地域が並んだ。また、飲食券の使用先としては、「これまでもよく利用している行きつけの飲食店」とする割合（66.8%）が最も高く、通い慣れた店を応援しようという姿勢がみられた。

1 県発行プレミアム宿泊券・飲食券

秋田県は、新型コロナウイルス感染症によって事業に影響を受けている宿泊施設・飲食店への緊急支援として、プレミアム（上乗せ金額）付宿泊券・飲食券を発行している。発行予定枚数は、プレミアム宿泊券（以下、「宿泊券」）が55万枚、プレミアム飲食券（以下、「飲食券」）が491万枚となっている。2020年6月に申込みの受付を開始し、宿泊券は購入希望者が多く抽選になるほどの人気となったが、飲食券の申込み枚数は11月25日現在で約361万枚と、発行予定枚数にはまだ余裕がある。

2 利用状況

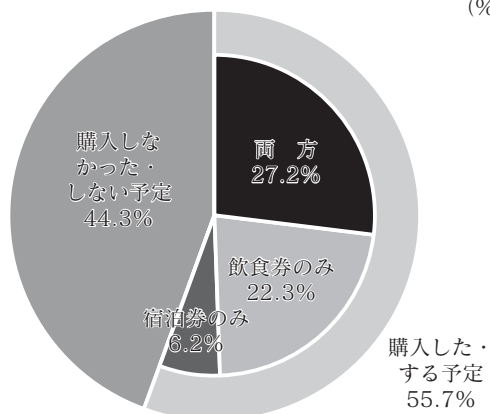
当研究所は、県が発行するプレミアム券の県内消費者の利用状況を把握するため、本年10月にアンケート調査を実施し、638名の方から回答をいただいた。

（1）購入状況

「プレミアム券を購入した・する予定」とした割合は回答者全体の55.7%となり、「購入しなかった・しない予定」（44.3%）を11.4ポイント上回った（図表1）。「購入した・する予定」割合55.7%の内訳は、「プレミアム宿泊券・飲食券の両方購入」27.2%、「飲食券のみ購入」

<調査要領> 回 答 数：638名(回答率46.4%) 調査方法：秋田銀行の本支店を通じて依頼し、 店頭または郵便により回収 調査時期：2020年10月 回答者の居住地域別内訳		回答者の年代別内訳							(単位：%)																		
		29歳以下	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	全体																		
		12.1	13.2	29.2	22.3	13.8	9.4	0.2	100.0																		
		(単位：%)																									
鹿角市	鹿角市	能代市	能代市	大館市	大館市	秋田市	秋田市	男鹿市	男鹿市	鹿上市	鹿上市	大仙市	大仙市	仙北市	仙北市	湯沢市	湯沢市	沢勝市	沢勝市	横手市	横手市	由利本荘市	由利本荘市	にかほ市	にかほ市	無回答	全体
6.0	6.0	6.9	6.9	11.4	11.4	42.8	42.8	8.2	8.2	9.9	9.9	2.7	2.7	6.0	6.0	4.1	4.1	2.2	2.2	6.0	6.0	4.1	4.1	2.2	2.2	100.0	100.0
(注) 集計結果は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある																											

図表1 県のプレミアム宿泊券・飲食券の購入状況 (%)



図表2 年代別プレミアム券の購入状況

(単位：%)

	購入した・する予定				購入しなかった・しない予定
	両方	飲食券のみ	宿泊券のみ		
29歳以下	55.8	26.0	14.3	15.6	44.2
30代	54.8	25.0	22.6	7.1	45.2
40代	60.7	27.3	28.4	4.9	39.3
50代	52.9	27.9	22.1	2.9	47.1
60代	53.4	27.3	20.5	5.7	46.6
70歳以上	52.5	30.5	16.9	5.1	47.5

22.3%、「宿泊券のみ購入」6.2%となっている。

年代別で見ると、いずれの年代でも「購入した・する予定」の回答割合は5割を超え、40代(60.7%)で最も高くなった(図表2)。29歳以下の年代では、「宿泊券のみ購入」(15.6%)が二桁となり、他の年代の2倍以上となった。30~60代では、「飲食券のみ購入」が2割台となり、70歳以上(16.9%)と29歳以下(14.3%)を上回っている。70歳以上では、「両方購入」(30.5%)と、対照的な「購入しなかった・しない予定」(47.5%)、どちらの回答割合も全年代で最も高くなった。

(2) プレミアム宿泊券の使用地域

宿泊券購入・予定者202名では、使用地域として、回答割合の高い順から「大仙市・仙北市・仙北郡」(27.2%)、「鹿角市・鹿角郡」(22.8%)、「男鹿市・潟上市・南秋田郡」(14.4%)となり、観光名所を有する地域が上位に並んだ(図表3)。

図表3 回答者の住んでいる地域別プレミアム宿泊券の使用地域

(単位：%)

		鹿角市 鹿角郡	能代市 山本郡	大館市 北秋田市 北秋田郡	秋田市	男鹿市 潟上市 南秋田郡	大仙市 仙北市 仙北郡	湯沢市 雄勝郡	横手市	由利本荘市 にかほ市
全 体		22.8	3.0	6.4	10.9	14.4	27.2	6.4	3.5	5.4
回答者の住んでいる地域	鹿角市・鹿角郡	23.1	0.0	15.4	15.4	15.4	30.8	0.0	0.0	0.0
	能代市・山本郡	40.0	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	0.0	10.0
	大館市・北秋田市・北秋田郡	5.9	5.9	17.6	17.6	17.6	29.4	0.0	5.9	0.0
	秋田市	24.4	2.2	2.2	10.0	16.7	27.8	8.9	2.2	5.6
	男鹿市・潟上市・南秋田郡	35.7	0.0	7.1	14.3	7.1	14.3	14.3	7.1	0.0
	大仙市・仙北市・仙北郡	25.9	0.0	14.8	11.1	14.8	22.2	0.0	0.0	11.1
	湯沢市・雄勝郡	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	57.1	14.3	0.0	14.3
	横手市	13.3	13.3	0.0	0.0	13.3	33.3	13.3	13.3	0.0
	由利本荘市・にかほ市	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7

(注) 「プレミアム宿泊券を購入した・する予定」回答者202名(無回答を除く)

なかでも、「大仙市・仙北市・仙北郡」は、県内全9地域に住む回答者が選択している。

自身の住む地域に宿泊した・する予定の割合は、9地域のうち6地域で2位以内に入っており、地元を応援する気持ちが強いことがわかる。

なお、秋田市に住んでいる回答者は全9地域を選択しており、アクセスの良さが影響したものと推測される。

(3) プレミアム飲食券の使用先

飲食券の購入・予定者313名では、使用先として、「これまでもよく利用している行きつけの飲食店」(66.8%)に回答が多く集まり、次いで「行きつけよりもグレードの高い飲食店」(27.8%)、「覚えていない、まだ考えていない」(5.4%)となった(図表4)。

回答者では、飲食券を活用し、馴染みの店を応援しようという姿勢がみられた。

図表4 プレミアム飲食券の使用先

これまでもよく利用している行きつけの飲食店	66.8
行きつけよりもグレードの高い飲食店	27.8
覚えていない、まだ考えていない	5.4

(注)「プレミアム飲食券を購入した・する」回答者313名

(4) プレミアム券を購入しない理由

プレミアム券を購入しないとした回答者278名に対し、理由を尋ねたところ、「プレミアム率に魅力を感じない」(22.7%)と「自身の住む市町村発行のプレミアム券で十分」(20.5%)の回答割合がともに2割を超え、次いで、「使用期間が短く不便」(13.7%)、「購入方法が分からない」(12.6%)となった(図表5)。

県内では、大半の市町村で商品券や飲食券を発行しており、プレミアム率が県を上回るケー

図表5 プレミアム券を購入しない理由

(単位：%)

プレミアム率に魅力を感じない	22.7
自身の住む市町村発行のプレミアム券で十分	20.5
使用期間が短く不便	13.7
購入方法が分からない	12.6
その他	30.6

(注)「プレミアム宿泊券を購入しなかった・しない」回答者278名(無回答を除く)

スや、住民に給付するケースがみられるため、このような結果になったものと考えられる。

また、「その他」が30.6%となり、全項目で最も多くの回答を集めた。具体的な理由としては、「使用する予定がないため不要」、「コロナ禍のため外出を控えている」、「経済的または時間的な余裕がない」などという声が聞かれた。

3 まとめ

本アンケート調査では、秋田県が発行するプレミアム券を「購入した・する予定」とした割合は回答者全体の55.7%となった。購入の内訳をみると、宿泊券・飲食券両方を購入する割合が最も高く、購入者が宿泊施設と飲食店の両方を応援しようとする姿勢がみられる。

一方で、プレミアム券を購入しない回答者は、「お得感」が薄いことを主な理由に挙げている。また、コロナ禍により外出を控えている回答者もみられ、収束が見通せないなかで慎重な姿勢が窺えた。

宿泊券の募集は終了したが、まだ未使用の購入者もみられる。また、飲食券は現在も販売中で、申し込み期限である2021年1月末まで、希望者は何枚でも購入することができる。プレミアム券がきっかけとなり、冬場の消費喚起に繋がることが期待される。(相沢 陽子)